

新たな議会体制へ

5期目のスタート

4月21日に行われました寝屋川市議会議員選挙におきまして、多くの皆様方からご支持・ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

選挙戦を通して訴えた内容につきましては、今後の議会活動の中で、行政に対する提案提言や議員間での討議などによって、具現化して参りたいと考えております。

今後とも、より一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

若い議会体制が続く結果に

左記の表のような議員構成となりました。1期生の占める比率は減少しましたが、1期生と2期生で議会の半数を占める構成となりました。

委員会の活性化などを目的とした委員会改革により、議員一人当たりの事業量は増えることとなります。逆に言えば、責任範囲が広がったということです。

期数の若い方々に刺激をいただきながら、研鑽を積んでまいります。

	新たな体制	旧の体制
1期生	6人	10人
2期生	6人	4人
3期生	4人	4人
4期生	2人	6人
5期生	4人	1人
6期生		2人
7期生	2人	
定数	24人	27人

議長職を振り返って

昨年の5月16日に議長に就任以来、新たな方々との出会いがあり、そして多くの方々にご指導を賜り、厚くお礼申し上げます。

この間の議長職は、他の年度とは違った経験をすることができ、充実した一年であり、光栄に思っています。例えば、地震や台風などの自然災害への対応、今後は経験することがない中核市移行の諸対応、議会内における昭和50年以来となる委員会改革。

議会日程や統一地方選挙などの都合により、着手できなかった課題もありますが、様々な諸対応は各会派幹事長を始めとする各議員の協力があってこそ成し得ることができたと考えております。

特に、報酬の削減における幹事長会は、それぞれの立場での責任を果たすべく、空気が張り詰めるような中での協議であったことが印象的でした。

自然災害への議会対応は、予算を活用しなければならない対策が含まれており、今期の議会で実現できるよう協力していきたいと思っております。

選挙を控えた年度の議長職は、議員の任期と同じく4月30日となります。それは、議員の任期が切れることから、自動的に議長職も解かれることとなります。よって、次の5月臨時会で新たな議長が決定するまでは、議長不在となります。

4月29日には、議長最後の公務となる「身体障害者福祉会定期総会」に出席しました。



政策に特化したアンケートの実施

データを根拠とした政策を考える風土が高まりつつあります。

これまでは、決算審査の資料や市民意識調査の結果の活用が象徴的なものでしたが、ビッグデータやAIなどの時流により、その意識改革が更に加速しています。

これまで、課題解決のために、政策に特化したアンケートの実施を求めていました。

例えば、人口の流動性に対する理由のアンケートが分かりやすい事例です。統計から推測できる人口移動の原因をもって、政策提言を行ってきた過去があります。その提言が的を得たのかは、推測の域を出ません。実際に本人の理由を確認することで原因を明確化し、その対策を的確なものとするのが、最も簡単な解決法との考えに至り、アンケートの実施を求めました。

これまでは、国が指示した各種計画を策定するための前段階としての政策特化型アンケートについては実施されてきました。

そのようなこと以外にも、市が自ら政策分野を選択し、市民に直接問いかけ、回答をいただくことで、課題がダイレクトに把握でき、的確な解決策につながります。

しかし、それには条件もあります。「的確な設問となっているか否か」「アンケートのサンプル数が適当か」「分析をする能力が磨かれているか」など。

そのような課題を乗り越えつつ、今後も継続してデータを積み上げることで、課題が発生する前にその予兆をつかむことができる環境まで向上できるよう、提言を繰り返してまいります。

浸水対策に関するアンケート

◇アンケートの概要

調査対象地域：平成24年8月14日豪雨で、床上・床下浸水の被害があった地域

調査者数：床上浸水被害者 1,190件

床下浸水被害者 2,237件

回答率：全体 39.3% (床上浸水対象者45.9% 床下浸水対象者35.9%)

◇本市の地域特性として…

寝屋川市が浸水被害に遭う地域特性として、これまで繰り返し私が指摘してきた内容、かつ、行政から積極的に発信していなかった内容が、設問の中に組み入れられていました。それは、以下の3点です。

「地表がコンクリート類で覆われることで雨がすぐに水路等に流れ込む（流出係数の問題）」

「一級河川寝屋川の流れる先が京橋口1か所（許容量の問題）」

「大阪湾の満潮・干潮の影響を受ける」

これらの設問内容を取り入れた、その姿勢から、行政側の真摯度は評価できると受け止めております。

◇老朽施設への考えは？

下水道の処理施設や下水道管は、老朽化し、更新の時代を迎えております。その時代背景から、維持管理・更新に対する財源に対する設問があり、以下のようになっています。

下水道管・施設の維持管理、老朽管の更新費用に対する考え方

下水道使用料の値上げを許容する 18.8%

下水道使用料に影響のない範囲で実施 68.8%

対象を絞ったことで、前回と同様の雨が降った際には、被害軽減につながる対策が実施できるメリットがあります。ただし、その地域がこれまでも恒常的に浸水被害があった地域なのか、平成24年の被害は軽微であったものの、過去に浸水被害が複数回以上あった地域を対象としなかったのは適当であったのか、なども今後の検証課題です。今後のアンケート実施時につなげるよう取り組みます。

中核市移行後の、中核市業務として出席

寝屋川市社会福祉審議会の開催

中核市となって新たに設置された「寝屋川市社会福祉審議会」に出席しました。
これまで「民生委員推薦会」のメンバーとして正・副議長は所属しておりましたが、今年度からは社会福祉審議会の中にある「民生委員審査専門部会」の委員に所属することになります。

社会福祉審議会			
民生委員専門部会	身体障害者福祉専門部会		社会福祉法人設立認可等 審査専門部会
	第1審査部会	第2審査部会	母子父子寡婦福祉 基金審査部会

※民生委員専門部会・・・6人の委員で構成され、民生委員・児童委員の適否に関する事項を審査します。

議長室は・・・こんな感じ

一般的には、縁遠い場所です。私自身、議員時代に議長室に入る経験はそれ程ありませんでした。
では、どのようになっているのか？ こんな感じです。



在室中、「入り口扉は常に開けておいてください」と事務局より依頼されました。
なので、扉のすぐ先にパーテーションで目隠しされています。



パーテーションを通り過ぎると、このような配置。
一般的な執務室という感じです。

接客・議長団説明を受ける応接セット。
多数の場合は、横にある議長応接室で対応します。



議長席から見た部屋全体の様子です。

議長の椅子。だいぶん、くたびれてます。



議長室の奥側。

棚の上には、友好都市・姉妹都市・豪栄道のグッズが並べられています。

テレビは、地震と台風の時、それと元号の発表の時に見たぐらいです。

壁に飾られているのは、歴代議長の写真です。
スペースがなくなってきたのが気になります。